



▲予定地の約8割は山林、残りが農耕地。山林のうち約7割が広葉樹林で、残りが植林地。

おだしげみ  
■織田重己/21世紀の巨大開発を考える会

## 愛知で進みつつある、 大型開発計画を 知ってください。



### 660haの里山が 自動車テストコースに

愛知県豊田市(旧下山村)と岡崎市(旧額田町)をまたぐ山中に自動車テストコース、研究・実験棟、厚生施設などを建設する計画が、昨年発表されました。工事・買収は愛知県企業庁が行い、造成後トヨタ自動車を購入することになっていきます。現在は企業庁による環境影響評価の調査中です。

総面積は660ha、山を切り崩して谷を埋める造成面積は410ha。地権者は600人を上回ります。東京ディズニーランドがディズニースーと合わせても100haですから、どれほど大きな開発か分かると思います。早ければ2010年に着工し、2020年完成を予定しています。過去にもこれだけの大規模開発をこれほど短期間に行ったことはほとんど例がないのではないのでしょうか。完成すると研究者だけで5000人、そのほかの従業員を入れると6000人ほどが働くことになって

います。下山村地区の現人口が5500人なので倍増するわけです。これだけの人が働くとなるとインフラの整備でも多大な環境破壊が予想されます。経済発展のためとはいえ、この時代にこれほどの環境破壊を計画することはとても不思議なことだと思います。

### 予定地では絶滅危惧種の猛禽類が繁殖

トヨタ自動車が昨年独自に行った調査によると、予定地には、環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に分類された猛禽類のサシバが3ペア繁殖し、オオタカ、ハチクマ(いずれも準絶滅危惧)も近くで繁殖していることが分かっています。レッドリストには記載されていませんが、ノスリも予定地内で数ペア繁殖しています。生態系の頂点に立つ種がこれだけ繁殖しているという事は、生物多様性に優れた生態系が良い状態で保たれていることとなります。これらの種はテストコースができればこのエリアから消えることが予想されます。企業庁は当

初これら貴重種がいても計画は変更しないとの見解を示していました。しかし、県知事が昨年7月に提出されたアセス方法書に対し「現在の地形や樹林地を可能な限り残すように」との意見を示したため、今年3月に開発面積の縮小を県議会で発表しました。

### 代替案として、余っている更地での建設を提案

私たちは代替案として、すでに企業庁が開発した埋め立て地、更地となって余っている土地での建設を提案しています。トヨタ自動車の工場がある田原1区と4区です。今回、世界一の企業のやることだけに地元になればなるほど関係者ばかりになり、反対運動も起きず、マスコミが取り上げることもほとんどありません。そこでこの現実を社会に広めるため、ホームページ(下記)をつくりました。ぜひホームページをご覧になり、そして周りの方にもご紹介ください。まずは多くの人に知っていただくことから始めたいと思っています。(投稿)

### 21世紀の巨大開発を考える会

<http://bio-diversity.info>

Eメール: info@bio-diversity.info

